

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	日向子ども発達支援センター もくせい園		
○保護者評価実施期間	令和8年1月26日		～ 令和8年2月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和8年1月26日		～ 令和8年2月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人一人に対してしっかりとしたアセスメントを実施して、保護者にも同意を得ながら児童発達支援計画を作成することができている。また、子どもの状態について、保護者と密に連携を図るように努めている。	相談支援専門員や保護者と話をした上で、子どもたちの状態を把握し、中長期的な視点で計画を作成している。また、保護者からの相談も随時聞きながら、療育に反映させるようにしている。	さらに丁寧なアセスメントを実施して、就学に向けた具体的な取り組み、見通しを保護者に伝えられるようにしていきたい。
2	地域の関係機関との連携や市内の保育所等との支援内容の共有を行っている。	定期的な支援会議や市内保育所の主任職員との情報交換、支援内容の共有をしている。	感染症等にも配慮しながら、交流保育や研修会などを実施していければと考えている。
3	子どもたちに活動の内容や日課が伝わりやすい工夫をしている。また、活動内容も子どもたちの状態、ペースに合わせて柔軟に対応している。	子ども一人一人の障害特性に合わせた日課の組み立て、関わり方を工夫している。定期的に話し合いの機会を設けて、支援方法の見直しも行っている。	職員の専門性を高めて、より具体的に適切な支援ができるようにスキルアップを図る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員数が不足している時に子供たちに十分目が行き届かない場面が見られる。そのことが保護者にも伝わってしまうので不安を感じさせてしまうことがある。	職員の数も含めて余裕がない状態にあるので、感染症などで休みが出た場合などに目が行き届かないことがある。また、そういった時には職員同士の意思疎通や情報共有も十分でないため、保護者への伝達不足などが起こってしまうことがあった。	職員の補充も含めて、余裕のある職員体制を作っていく必要がある。また、活動内容やグループ分けなども柔軟に考えながら、しっかりと子どもたちに関われるような環境を作っていく。
2	事業所の設備が古く、子どもたちの状況に合わなくなっている状態がある。	事業所設備の経年劣化などもあり、現状に合わなくなっている部分がある。	必要に応じた修繕や子供たちに合わせた設備の工夫などが必要になっている。
3	安全計画や事業継続計画(BCP)などの訓練実施や職員および保護者への周知が十分にできていない。	職員体制に余裕がないことが訓練の実施を難しくしている部分もあるが、計画的に実施できていないことも考えられる。	年間計画等で早めに設定する。また、計画や内容を職員や保護者にも早めに周知する。